



「観点別学習評価」一律導入に反対！

4月から観点別学習状況評価（以下「観点別評価」）が本格導入となりました。高教組は昨年9月に実施したアンケート調査をもとに、県教委との折衝を継続し、校務支援システムとともに、導入の廃止を求めてきました。3月30日には、教育長宛に「子どもたちの主体的でゆたかな学びを保障するために観点別学習評価の廃止を求める請願書」を手交しました。

主な請願内容

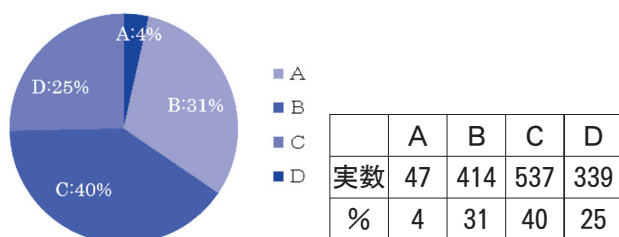
- ①評価シートによる画一的な評価を廃止し、各校の評価方法を尊重すること。
- ②校務支援システムが学校現場に対応したものとなるよう改善を図ること。
- ③県による、生徒の成績・個人情報等の一括管理をやめること。

県教委「着地点を探したい」 5月17日の佐藤高校教育課長との折衝では、請願書に対する正式回答には至りませんでした。「観点別評価の意義を理解していただきたいが、いずれは着地点をさぐりたい」という回答を得ました。今後、正式回答を引き出すまで、アンケート調査をもとに現場の声を届けていきます。

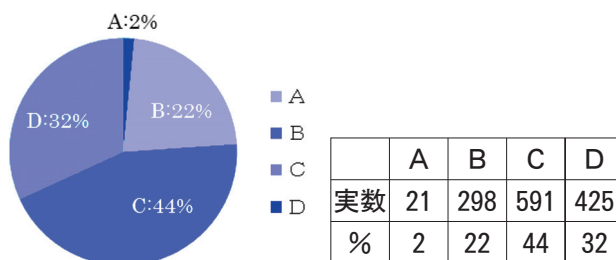
そもそも、なぜ観点別評価？ 県教委は観点別評価を行う意義を、「すべての生徒に確かな学力を身につけさせる」「指導と評価の一体化」「学習評価の妥当性」などをあげています。しかし、このことと現在導入されている評価シートにはどれほどの関連性があるのでしょうか。アンケートから見てくるのは、「観点を細かく分けて、データ収集に力が注がれるため、生徒との時間が作れない」「教材研究の時間が取れない」など、授業の改善に役立っているとは思えない現実があります。

高教組アンケートから 昨年高教組が実施したアンケート結果から見てくるものは、「シートを使った評価作業による労力の割には、その効果が表れにくい」というものでした。記述式回答からも、「これまでやってきた評価の方が、妥当性が高い」という意見が多く見られました。

《授業改善に役立ったと思いますか？》



《観点別評価が生徒理解に役立ちましたか》



A 大いにそう思う B そう思う C そう思わない D 全くそう思わない

意見募集

高教組は、今後昨年のアンケート調査結果や県との折衝の状況、他県の状況等を、職場討議資料として発行します。今回紹介できなかった記述解答についても順次紹介していきます。また、昨年と違った状況や、とりくみのすすめ方について、みなさんからの意見を募集します。メール・FAXでの投稿をお願いします。

Mail: iwako@jtu-iwako.jp

FAX 019-653-2285

・「観点別評価」係まで
・様式は問いません。